

# 参考資料

# 都市局による支援事例【地域活性化】

## 市民・来街者の回遊性向上サービス（栃木県宇都宮市）

### ■テーマと支援内容

- 中心市街地においてデジタル技術を活用した利便性の高い空間を創出し、市民や来街者の回遊性向上を図る。
- R2年度に回遊促進アプリの開発やデジタルサイネージを通じた行動変容施策の効果検証等を実施し、回遊性の向上効果を確認。



写真.回遊促進アプリによる情報発信



写真.デジタルサイネージによる混雑情報の発信

### ■実装の状況

- R4.4より、開発した回遊促進アプリを「コレメック宇都宮」としてリリースしサービスを開始（利用者約18万人（R5.10時点））。
- デジタルサイネージについては、R4年度に「コレメック宇都宮」と連動させる実証実験を進め、R5年度よりLRT停留場や観光拠点の市有施設に民間事業者が「コレオ・タッチ」として設置・運営を行っている。



図.「コレメック宇都宮」イメージ

## 市民・来街者の回遊性向上サービス（埼玉県熊谷市）

### ■テーマと支援内容

- 先進的な技術活用による「暑さに対応したまち」の構築を目指し、アプリ「くまぶら」を構築、運用。
- R3年度に、「くまぶら」を通じて気象状況等に合わせたイベント情報や地域商店のクーポン配布等を行い、市民や来街者の行動変容を検証。



図.クーポン提供イメージ（「くまぶら」）

### ■実装の状況

- くまぶらは継続運用し、R5.11現在の利用者数は約28,000人
- 機能拡張（GPS機能・電子チケット）し、地域イベントの実施に活用、アプリ利用を促進。
- 今後、データ連携基盤を通じ自治体電子マネー・コミュニティポイントやスマホ回数券（コミュニティバス）との連携を図る。



図.位置情報に基づくイベント情報の提供（「くまぶら」）

# 都市局による支援事例【地域活性化】

## 市民・来街者の回遊性向上サービス（東京都江東区）

### ■テーマと支援内容

- 豊洲エリアにおいて、特定の施設・拠点に人が集中し、その場所に立ち寄るだけとなっており、豊洲内の回遊が少ないことが課題。
- R3年度に店舗のリアルタイム情報発信「スマートイト」「デジタル観光マップ」等の開発・実証を行い、来街者の回遊状況や混雑状況の変化を分析した結果、エリア内の移動距離、立ち寄る場所の増加傾向が見られた。



図.「スマートイト」「デジタル観光マップ」画面（左）と移動データ分析状況

### ■実装の状況

- 「スマートイト」は継続運用中で、閲覧数はR5.2時点で店舗情報が約5,400、観光情報が約1,900。今後は、情報発信だけでなく事前決済の機能を加え、スマホ一つでシームレスなエリア観光体験へと発展させていく予定。
- R4年度に豊洲エリアのデジタル観光マップに、地域イベントと連動した回遊状況を掲載し可視化。
- 今後、地域連携によるマップのアップデート及びホテル等に導入するデジタルサイネージを活用した情報発信及び利用促進を行うことで回遊時間、消費機会の向上等につなげていく。



図.デジタル観光マップ上での回遊状況の可視化

## 市民・来街者の回遊性向上サービス（新潟県新潟市）

### ■テーマと支援内容

- データ利活用により地域に潜在する価値を活性化するため、まち統合アプリの導入とシェアサイクル等の他の都市サービスとの連携を実施。
- R2～3年度に実証を行い、まち統合アプリを通じた情報発信による滞在時間の増加、シェアサイクル（市内4箇所）による一人当たりの移動距離や立ち寄り箇所の増加傾向等一定の効果を確認。

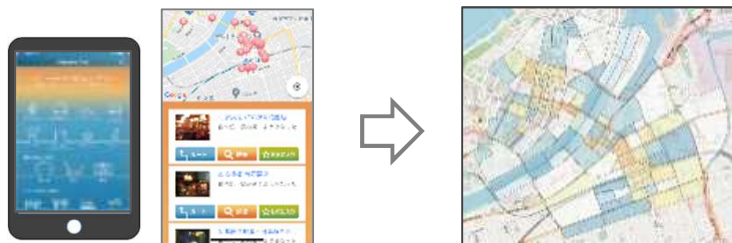


図. まち統合アプリによるエリア情報の発信イメージ

図. 移動データの分析イメージ

### ■実装の状況

- まち統合アプリやシェアサイクルは継続運用中。シェアサイクルは設置箇所を市内30箇所拡大し、R4.9より本格運用。
- 更なるエリアの回遊性向上にむけて、人流データ等を活用したスマートプランニングの導入や公共空間の利活用促進施策の検証を予定。



図. シェアサイクルの本格運行

# 都市局による支援事例【地域活性化】

## 市民の健康増進支援サービス（北海道札幌市）

### ■ テーマと支援内容

- 健康に関心がある人を増やすことで社会保険料などの支出を抑制し持続可能な都市経営を実現。
- 歩くことを促すことで健康とともに公共交通利用を促進し、公共交通網を維持などに寄与する行動変更を起こす。
- 健康寿命の延伸や「健康」と「賑わい」の向上を図るため、「健康をきっかけとした市民参加型のデータシステム」を構築。
- R2年度から、アプリを通じてポイントを付与することで利用者の移動と健康増進の効果検証等を実施し、市民の健康意識向上促進についての効果を確認。

### ■ 実装の状況

- R4年度に「さっぽろ圏公式ポイントアプリ」としてサービスを開始。R4.12月末時点のアプリ利用者数は4,217人。
- 今後は、市内アプリの統合やニーズに応じたミニアプリの充実化により利用者数を増加等を目指とともに、取得データの行政への活用を検討。

まちなか歩きやアンケート回答に対し、電子マネーに交換可能なポイントを付与するサービスを提供。

ポイント利用のほか、日々の生活に役立つミニアプリ（ごみ出しカレンダー等）や行政等からのお知らせを提供。



図.「さっぽろ圏公式ポイントアプリ」画面イメージ

## 人流センサーを活用したイベント効果検証、地域商業への支援（愛知県岡崎市）

### ■ テーマと支援内容

- 乙川リバーフロント地区において、公共空間の一体的整備と回遊性向上施策により観光拠点となるにぎわいの場の創出を図る。
- 再開発事業に合わせて設置した人流センサーを活用した人流統合分析システムを開発。R2年度に取得データを活用・分析し、イベント等における混雑情報のリアルタイム共有による密度コントロール効果を確認。

### ■ 実装の状況

- 人流統合分析システムは実証後も継続して利用。市内の各種イベントの効果検証において活用。
- 現在、人流統合分析システムを活用した地域商業者へのデータ活用支援や歩道空間への出店最適化に関する検証などを実施中。

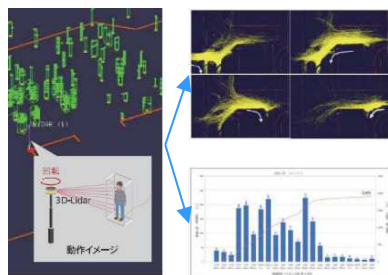


図. 人流センサーによるデータ取得と分析イメージ



図. 混雑情報のリアルタイム共有状況



地域商業者への支援、歩道空間の出店最適化



# 都市局による支援事例【モビリティ】

## シェア型マルチモビリティサービス（埼玉県さいたま市）

### ■ テーマと支援内容

- 駅を核とした人中心に最適化された都市空間・環境の形成を目指し、地域回遊性を高めるため、シェア型マルチモビリティを導入。
- 大宮・さいたま新都心駅周辺から市内全域へと展開する中で、インフラ整備とデータ活用、異業種連携を通じてスマートプランニングによるウォークアブルな都市空間・環境の形成を進める。



小型EV 30台  
スクーター 20台  
自転車 5300台

図.導入中のモビリティ（R4.12時点）



図.取得した移動データ例

### ■ 実装の状況

- 移動データの分析により適切なポート配置を検討し、モビリティポートの設置を推進。大宮駅周辺を中心に約400箇所まで拡大（R4.12時点）。
- モビリティステーションの多機能化（モビリティハブ）を推進中。
- 既存公共交通（鉄道、高速バス）との乗継誘導や決済面での連携、商業施設やバスとのアプリを活用した連携により、地域の交通利便性、回遊性を高める施策を実施。



図：モビリティハブでのイベント創出事例

## ニュータウンにおける地域共助送迎サービス等（愛知県春日井市）

### ■ テーマ支援内容

- 高蔵寺ニュータウンは、高低差が非常に大きく、高齢化率も高い（R5.4現在36%）ため、外出機会の減少や免許返納後の不安感など、「移動」が大きな課題。
- オンデマンド型自動運転送迎サービス（自動運転レベル2）など、地域特性に応じたモビリティサービスを導入。サービスの一環として、駐車場利用情報の可視化に関する実証を実施。



自動運転送迎車両



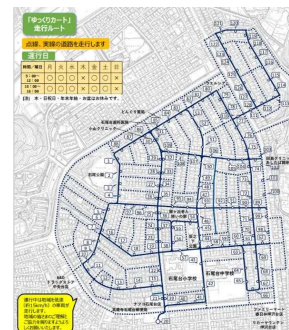
走行ルート形成イメージ



駐車場満空アプリ

### ■ 実装の状況

- 駐車場利用情報の可視化については、計測データをもとに駐車場の満空アプリを開発しサービスを提供。
- また、地元住民の有志でNPO法人を設立し、R4.10から有料で石尾台地区内での地域共助送迎サービスを開始（R5.2より自動運転車両使用）。
- 送迎サービスは週5日運行、R5.9までの利用者数は1,212人（約5人/日）、347世帯等が会員登録。買い物や通院などに利用され住民の外出促進に寄与。
- システムの利便性向上などを図り、持続的なモビリティサービス提供を目指す。



送迎車両運行範囲

# 都市局による支援事例【モビリティ】

## 自動運転バスシステム（東京都大田区）

### ■ テーマと支援内容

- 羽田イノベーションシティ（HICity）では、「交通弱者支援」「人手不足」等の解決方策として、「先端技術の実装」「空間情報データ連携基盤の活用」を想定。
- 令和2年度は、空間情報データ連携基盤を活用した自動運転バスの運行実証を実施。遠隔監視・管制の可能性等を検証。



図. 実証実験の状況（車両と遠隔監視）

### ■ 実装の状況

- 実証実験を経て、R2年度よりHICity内で自動運転バスを定常運行（利用者数約50人/日）。また、HICityと羽田空港第3ターミナル間で試験運行。
- HICity内の人やモビリティ、ロボットなどのリアルタイム位置情報とともに、自動運転車両の運行位置等も集約・確認。



図. 自動運転バスの運行状況（左）とリアルタイム位置情報確認

# 都市局による支援事例【防災】

## AIを活用した河川水位予測システム（静岡県藤枝市）

### ■テーマと支援内容

- 市が管理する中小河川（69河川）が多く、水防管理体制の効率化や住民に適切な避難指示を目的に、AIを活用した河川水位予測システムを構築。
- 令和2年度に予測精度と導入効果の両面から検証し、中小河川においても高い精度で水位予測ができることを確認。



図.AI水位予測システム概要

### ■実装の状況

- 令和5年度は5河川を対象に「AI水位予測システム」を運用中であり、水防訓練等で活用。
- 今後は、対象河川の拡大や予測結果の公表、他都市への横展開等を検討。

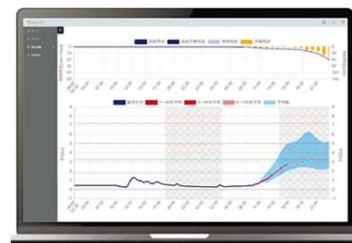


図.AI水位予測システム画面



写真.水防訓練の様子

## オプトイン型防災情報提供サービス（福島県会津若松市）

### ■テーマと支援内容

- オプトイン型※の災害情報提供サービス「マイハザード」を構築し、市民に対して、より高度な避難誘導等のサービスを提供。
- 実証では、UI/UX 検証・防災訓練検証・API連携検証を実施し、サービスの有効性の確認と他サービスとのデータ連携を確立。

#### ※オプトイン型の災害情報提供：

利用者の事前の同意に基づき、年齢、性別や位置情報に合わせた避難ルート、家族情報連携による安否共有・確認等を行う。



図.「マイハザード」利用者画面(イメージ)

### ■実装の状況

- R4年度に、「命を守るデジタル防災（マイハザード）」をリリース。R5.9月末時点のダウンロード数は380件。
- 介護・ケアラー向けサービスと連携し、防災及び介護が連携した取組を推進。

行政や町内会等向けにも、市民の避難状況等が把握できる管理ツールも構築。





# 都市局による支援事例【エリアマネジメント】

## 地上地下経路情報提供サービス（東京都千代田区）

### ■ テーマと支援内容

○大丸有地区では、イノベーションとテクノロジーによる仕組みの再編・構築によるエリアマネジメント・公民協調によって、都心の成熟した持続可能な発展を目指し、様々な取組を実施。

○令和4年度、地区滞在者、特に車椅子ユーザーが平時・非常時ともに地上・地下の有効な移動経路を判断できるようにするアプリ・webページを開発し、その有効性を検証。マップに重畳する段差情報やスロープ情報はエリアマネジメント組織が現地調査の上取得・反映。



図.効果検証の様子

### ■ 実装の状況

○令和3年12月より、マップ上でエリアのイベント情報やモビリティ情報を提供するアプリ「Oh MY Map!」に、開発したコンテンツを搭載。（令和5年1月時点で約3,000ユーザー）

○今後は、「Oh MY Map!」を通じて、リアルタイムの災害関連情報やMICE開催時の会場周辺情報などを来街者に提供可能とするサービスを機能拡充予定。



## 3D都市モデルをベースにした住民合意形成（東京都港区）

### ■ テーマ支援内容

○市民参加型まちづくりによる地域課題解決の実現を目指す取組として、3D都市モデルを活用した地域活動や防災ツールを構築。

○R4年に、災害発災後の混雑人流シミュレーションを開発し、その説明性等を検証。



図.竹芝地区の3D都市モデル



図.周辺施設からの帰宅パターンの違いによる混雑状況シミュレーション

### ■ 実装の状況

- R4.5月に、防災担当者会議で資料として使用。
- 当該会議で使用したシミュレーションは、条件を変更してコンソーシアムで防災検討ツールとして引き続き活用。
- 高額なシミュレーションの開発コストへの対応を検討しつつ、当該手法の横展開を目指す。

エリア内の4施設から流出する人が、浜松町駅、大門駅、竹芝駅の3つの駅に一斉帰宅することをいくつかのパターンでシミュレーションし、駅周辺の混雑がボトルネックであること等について意見交換を実施。



写真.防災担当者会議の様子



# 都市局による支援事例【安心／子育て】

## 見守りカメラの最適配置（兵庫県加古川市）

### ■テーマと支援内容

- 犯罪の抑止等による地域の安全・安心のまちを実現するため、平成29年度から市内に1,475台の検知器を内蔵した見守りカメラを設置。
- 令和3年度に3D都市モデルを活用し、駅周辺の500台の見守りカメラの可視解析を行い、配置最適化の検証を実施。

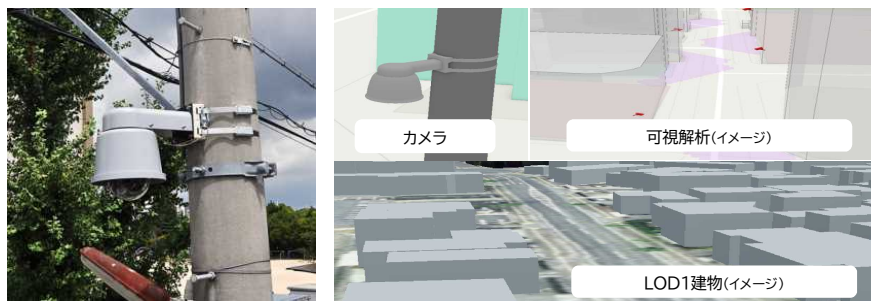


図.見守りカメラの可視解析イメージ

### ■実装の状況

- 検証に基づき、犯罪・交通事故の未然防止等の仕組みを取り入れたAI高度化カメラ（150台）を新たに設置。見守りカメラの更新に向けた設置台数の検証に活用。
- 今後、見守り検知タグや水位センサー情報等をデータ連携し、行政情報ダッシュボードに一元化・可視化するとともに、周辺自治体への横展開による広域防災の実現を目指す。



図.新設されたAI高度化カメラの機能イメージ

## 乳幼児見守り支援システム（島根県益田市）

### ■テーマと支援内容

- 保育士確保難への対応として、労務負担を削減するため、タブレットを活用した乳幼児見守りシステムを開発。
- 令和元年度に、乳幼児体動センサーの有無による保育士の作業負担等の違いを検証し、作業負担の軽減、心理的な負担の軽減等について効果を確認。



図.乳幼児見守り支援システムの概要

### ■実装の状況

- 令和2年12月に、実証を行った益田医師会病院付属の保育所で、一部機能を継続運用。
- 高齢者介護施設やコロナ病床へも応用して展開。



写真.保育所での導入状況